

障がい福祉瓦版

点字ブロック



■問い合わせ先 市障がい児者相談支援センター ☎(37)9970

3月18日は「点字ブロック」の日です。点字ブロックとは、駅のホームや歩道にある、黄色いデコボコしたタイルのような物のことで、正式には「視覚障害者誘導用ブロック」と言います。

日本人が考案

1967(昭和42)年3月18日、世界初の点字ブロックが、岡山県立岡山盲学校の近くに設置されました。

考案したのは、同県の三宅精一さん。盲学校の生徒が道路を渡る際に、危うく事故に遭いそうになり、それを三宅さんが目撃したことがきっかけでした。

発明家として知られていた三宅さんは、知人の視覚障がい者から「デコボコしたものなら感触でわかりやすい」と聞き、正方形の中にゆるやかなドーム状の突起を49個並べたブロックを作りました。

このドームが点字に見えることから、「点字ブロック」と呼ばれています。

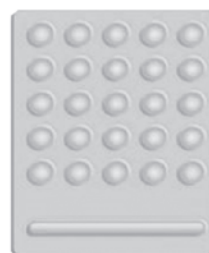
点字ブロックの色は、原則として黄色です。これは、視力の低下した方や、色の違いが分かりにくい弱視の方に配慮しているためです。

現在では、歩道や駅だけではなく、スーパーマーケットやレストランの出入口などに設置がひろがっています。また、海外にも少しずつ普及しています。

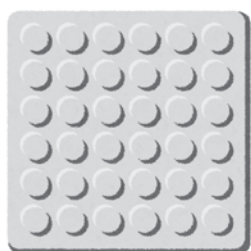
点字ブロックの種類と特徴



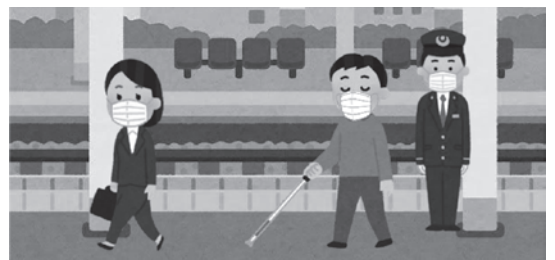
①線状ブロック
(誘導ブロック)
進行方向を示すブロックです。線が伸びている方向に、道が続いていることを表しています。



③内方線付き点状ブロック
点状ブロックに線状ブロックを1本加えて、どちら側に電車が来るのか分かるようになっています。目の不自由な方が駅のホームから転落するのを防ぐために、新たに考え出された点字ブロックです。



②点状ブロック(警告ブロック)
点状の突起があり、危険な場所や目的地を表します。
階段前、横断歩道前、線状ブロックが交差する分岐点、案内板やエレベーターの前などに設置されています。



私たちにできること

目の不自由な方は、点字ブロックの情報を足の裏の感覚や白杖はくじょうなどを使って読み取り、それをもとに歩いています。つまり、点字ブロックは命綱のようなものです。そんな点字ブロックが、自転車や車、荷物などでふさがれていると、それらを避けて移動しなければいけません。避けたはずみに転倒したり、車道に出てしまったりするなどの危険性もあります。

私たちにできることは、点字ブロックの上では立ち止まらず、点字ブロックの周囲には障害物を置かないように気を付けることです。

また、点字ブロックの有無に関わらず、もし目の不自由な方が駅のホームの端を歩いたり、横断歩道で困っていたりしたら、声をかけて安全なところへ案内するなどの配慮をお願いします。



このように白杖を持ち上げていたら、助けてほしいというサインです